

## 狛猿

多くの寺院や神社が狛犬（守護獣である獅子犬）によって守られているのとは異なり、新日吉神社は狛猿と呼ばれる珍しい一対の猿に守られている。狛猿は本殿の入り口の横に座っている。より一般的な狛犬と同様に、一匹の口は固く結ばれており、もう一匹の口は開いている。これは仏教寺院の門の守護神にも見られる型である。これらの猿の存在は、新日吉神宮の神々の起源である日吉大社では猿が神々の使者と考えられていることに関係しているようだ。

また、狛猿というのは言葉遊びからついた名前でもあるということを示す説がいくつかある。「まさる」という言葉は「魔が去る」と「勝る」の両方を意味し、狛猿（こまさる）の中の「まさる」にかけている。信徒はこの狛猿が悪を祓い、災難を防ぐと信じている。狛猿が金網で囲まれているのは、神の使者である猿が盗まれないようにするため、あるいは猿が夜中に徘徊しないようにするためだと言われている。